



ダイレクト損害保険会社が、板金塗装(BP)工場への入庫誘導基準としてテュフ認証を採用している。SBI損害保険は10月からテュフ認証工場への優先入庫を開始。チューリッヒ保険会社は来年から試験運用を始める。ソニー損害保険は提携修理工場の選定基準の一つとし、既存工場では認証取得を推奨する方針だ。損保各社は先進安全技術や新素材への対応のみならず、法令順守、環境配慮、顧客対応なども重要な入庫誘導基準にしている。テュフ認証はこうした項目を総合的に評価した第三者基準であり、BP工場にとっては認証取得の有無で入庫先としてふるいに掛けられることになる。

## ダイレクト損保



テュフ認証が入庫誘導基準になってきた  
(写真は日免オートシステム)

# テュフ認証で入庫先選別

SBIが引き金

ついに入庫先選別が始まった。その引き金を引いたのがSBI損保だ。同社は8月にテュフ認証工場への入庫誘導を優先すると発表。10月からテュフライオン「ドシャパン(トピラス・シュヴァインフルター社北区)」が認証する最上位の「プラチナ」と高水準化する顧客ニーズと高度化する

ド、同社が監査を行うBSサミット事業協同組合によるエクセレント車体整備工場への優先入庫を開始した。チューリッヒも同様の取り組みを来年から始める。まず、地域限定で実施するほか、契約者個人に合わせて事故対応を案内する「パーソナライズ動画」の中で紹介する指定修理工場でもテュフ認証工場を優先させる。ソニー損保は指定修理工場ネットワーク「スマイル工房」の選定基準を補完する目的でテュフ認証基準を採用する。「スマイル工房」の修理品質と顧客対応品質を二段と強化する」のが狙いで、多様化する顧客ニーズと高度化する

## 指定工場網の質引上げ

車両技術に対応する指定工場網の質的向上を図る考えた。テュフ認証工場だけを優先するわけではないが「入庫先の要望がない場合や欧州車などについてはテュフ認証工場を優先する」という。

### 高度な修理技術必要

自動ブレーキに代表される先進安全技術の普及、超高張力鋼板やアルミといった新素材の採用拡大など、いまBP業界を取り巻く環境は大きく変化している。損保会社の認識は「高度な修理技術がない工場では安心安全を担保できない」。加えて、保険契約者の満足度を高めるためには法令順守や環境配慮、顧客対応などの強化も不可欠と見ている。逆にBP事業者にとって、テュフ認証が入庫誘導先として選定される重要なポイントの一つになりつつある。